

リリウ

「ふふ♪ まだ罪がおありなんですね♪
はい、喜んでお相手を……懺悔を聞かせて頂きますね♪」

へしゆり……くちゅへ

（身体が動いた衣擦れの音）

リリウ

「でもそうになると……修道服を着たままですと、聖水も使ったので濡れてしまいそうですね。
ちよつと脱いだ方がいいでしょうか？」

へ……さすへ

（悩むシスターを見ていて、つい手で胸を触ってしまう音）

リリウ

「んきゃっ！？ も、もう！！ 急にどうされたんですか！？
い、いきなり触るからビックリしちゃったじゃないですか！
はえ？ 胸を突き出すみたいにしてるから、誘ってるのかと思った……です、か？
あう……いえ、別にそんなつもりはないのですが。ああでも、嫌な訳でもないですよ！ ……あう」

リリウ

「うー……もうっ！ 女性の体を、無節操（むせつそう）に触っちゃダメですよ！
これは、もうあれです！ 色欲の罪です、間違いありませんっ！
普段も、つい女性の姿を見てしまったり、胸とか……じっと見てしまふとかあるんじゃないですか！？」

へしゆり……へ

（聞かれて、思わず目を逸らしてしまう音）

リリウ

「むう、その反応。ちよつと目が泳いでいませんか？
やっぱり男の方は普段暮らしても、気になる方がいたらつい胸とか……目で追ってしまうものなんですか？
うー……私の胸はだからでしょうか？ あまりそうした覚えはないのですが……。
……いえ、神に仕える者として、別に寂しいという訳ではありませんよっ！」

リリウ

「……決めました！ 今からする懺悔は、貴方の色欲の罪に対してにしましょう！
女性を、普段から淫らな目で見てはいけませんから！ なので胸に慣れて頂こうかと！ ……いいですねっ！」

へしゆる……ぱさっへ

（修道服をはだけさせ、片方の胸をみせる音）

リリウ

「んっ……如何ですか？ その、小さいかもしれませんが……形が悪いといった事はないと思うのですが。その、周りのシスター達と比べても発育が甘いだけで、別段劣っているというか……あの、見劣りはしてない……と、自分では、思っているんですけど」

リリウ

「はえ？ あ、この下着ですか？ あ、はい……。その、借りたガーターベルトとセットになっているもののようにして、着ける（つける）なら一緒に着なさい（きなさい）と言われたもので。えへへ、こんなに透けてるとドキドキしちゃいますけど、でもデザインは可愛いから気に入っているんですよ？」

リリウ

「え……あつ。……えへへ♪

この下着も私の胸も、どちらも綺麗なんて言っただけで頂けると思わなかったです。ちょっと嬉しいですね、えへへ♪ほら、これ……覆っているだけですから、横からスって指入れられて……胸、すぐに触れちゃうんですよ？ふふ♪ どうでしょう、触って……頂けますか？」

へしゆる……ぴと々

（胸に触る音）

リリウ

「んっ、あん……♪ えへ……触られちゃいました♪

どうでしょう、揉み心地……はないかもしれませんが、肌の柔らかさとか、張りっ……言うんですか？こう、胸の具合としてはぷにぷにして、撫でて楽しんで頂けるものだと思っ……」

へさす……さすり々

（胸の感触を楽しむ音）

リリウ

「んんっ……あは♪ はい、楽しんで頂けてるなら何よりです♪

ふふ、こうして熱心に触って頂けていると……何だか、子供に甘えられてみたいですね♪

んっ♪ ふふ、私……結構教会の近所の子供と仲が良かったですよ？

他のシスターですと……皆さん良い方なんですけど、ちょっと子供が苦手だったり、アクの強い方もいらっしやいますので……。

彼らも遊び相手としては、私ぐらいが丁度良いのかもしれませんがね」

へきゅっ……すり々

（胸をつねり、擦る音）

リリウ

「う……んっ♪ も……馬鹿、言わないでください……い♪

こ、子供にこんな風に胸を触らせる訳ないじゃないです、か……あんっ♪

お、思い出したのは甘えて貰えてるみたいで……うんっ♪ こ、子供を相手にしている時を、思い返しただけ……

…です、って♪

んっ……ひゃっ、あうっ♪ や、そんな乳首をつねらないでくださ……ひゃうっ♪」

リリウ

「う、あ……や、あ……んんっ♪

も、そんな……おも、ちゃみたいに、乳首弄って……うんっ♪

乳首をた、立たせてる方が悪いなんて、言わないで下さい……は、あう……くうっ♪

子供、みたいだって言われたと思って……お、怒られたんです、か？ ひゃうっ♪

む、う……だって、すごく熱心に……いっぱい、触って下さる、からっ♪」

リリウ

「うんっ♪ はう……も、お♪

甘えて……んくっ、頂けてようで、嬉しいっていう……だけ、なんですよっ、は、うっ♪

頼って、頂けるのって私……んっ、ひゃっ！ 多分好き、なんだと……思います、んっ♪

はあ……あ、あう……んっ♪ だから、私……教会の……こうして、罪を、聞いて……懺悔をして差し上げられる教えにっ♪

とても、懂れて……いた、んですっ♪ こんな風に、罪を許して……あんっ♪

頼りにして、甘えて……んっ♪ いた、だけ……ますからっ♪」

リリウ

「あの……もし、良ければなんですが……んんっ！

その、胸を……手じゃなくて、口で……吸って、頂けます、か？

そっちの方が……甘えて、頂けてる感じがして……素敵、だなって♪

あ、う……んんうっ♪」

へぴちゃ……ㇿ

（胸に吸い付く音）

リリウ

「あ……んんんんっ♪

そ、そうです……あり、がとう……ごさいま、すっ♪

んんうっ……あはっ、そうして、頂くと……すごく、甘えて頂けてるよう、で……うれ、しい……ですっ♪

それ、に……こ、今回の懺悔は……色欲を抑える、ためのもの、ですし……うんっ♪

私の、胸が小さい分……顔を寄せてより近くに、感じてっ頂ける……この形の方が、きつと……いいと、思うん、ですっ♪

あっ、う……んんっ♪ む、う……やあ、舌が、乳首をコリコリ、捏ねてくるっ、はううっ♪」

リリウ

「ふー……ふー……んんっ♪

えへ、子供というより……赤ん坊のよう、です……ねっ、あは♪

いっぱい、触れて頂けて……すごく、嬉しいですっ♪

でも、これだと……あんっ♪ あ、貴方の懺悔というより……私が弄って頂いて懺悔、してるようになって、し

まう……のでっ♪」

⤵すっ……くちゅ⤵

（手を動かし、イチモツに触れる音）

リリウ

「んっ……あ、はっ♪ また、硬くなり始めてますね、貴方のっ♪

私の胸を弄って、遊んで頂いてるだけじゃ懺悔とは……言えません……からっ。

私も触って、貴方に色欲を……我慢、させちゃいますから、ね？ んっ！」

⤵ずっ……ぐちゅ、ぐちゅ⤵

（イチモツを擦る音、以下背景でうっすらと）

リリウ

「んっ、さっきの聖水が……残ってて、すごいぬるぬる……ですっ♪

貴方の、液の名残も……ある、んでしょねっ……んっ！

はうっ！ んっ……ずる、い……胸を、そんな吸われたら、私が貴方を弄るのやり……にくいです、よおっ♪

うー……でも、女性の胸に慣れるため、ですもの……ね？

あう、すぐムズムズして、気持ちよくなっちゃってますけど……私も懺悔のために、頑張って、我慢……しますから、ねっ！ ……んうっ♪」

リリウ

「んっ、んっ……んふ♪

段々、ぬるぬるの量……増えて、きています……よっ♪

ふふっ♪ 我慢……我慢ですからね？

私、もっ……貴方につ、こんなに胸を吸われながら、我慢……しているのですからっ。

貴方も……罪を、懺悔を……色欲の強さを、我慢しなきゃ……いけませんから、ねっ！

んんう、ああ……やあ♪ 我慢してるのに、何かすごく……ムズムズ、キちゃって……ます♪」

リリウ

「ふー……ふー……ふー♪

いけない、人です……貴方、はあ♪ 色、欲をお……我慢して、下さいと言ってる……のにい♪（※ここまでに完全に右耳囁きに）

こんな、こんなに……私を、とろとろにして♪

貴方、自身も……とろとろをこんなにいっぱい出してっ♪

私の手え♪ もう、貴方の熱くなってるお肉の棒を……おちんちん握って♪

すごく、すごくすごく……っ。 あっあつとろとろに、なっちゃってるじゃないです……かっ♪」

リリウ

「これじゃ、全然……我慢に、なってませんから……ね？

だから、もうちょっと……私、貴方に我慢をさせちゃいますからっ♪

胸でも、手でも……こうして触ってるのにもっと我慢が必要というなら……こう、ですっ♪

あ、はあー……むっ♪

ん、ちゆる、じゆる、じゆるちゆる、ちゆるれろ、ちゆるう、れろれろ、じゆるっ♪」
リリウ

「じゆる、れろ……ちゅっ、ちゅっ、れろ、ぴちゃ……れろ、れろ、ちゅっ♪
ちゅぷ……ぷはっ♪ ふー……えへへえ♪

耳も、こうして舐めたら、ゾクゾク……しますか？

ふふ♪ 口も、胸も、手も使って……貴方の色欲、懺悔させちゃいますから♪
はあ、むっ♪ んっ、れろ、れろれろ、ちゅう……じゆる、ぴちゃ、ぴちゃ、れろ、ちゅっ、ちゅう、
じゆる♪」

リリウ

「れろ、ちゅう、ちゅう、じゆるっ……ちゆるうっ♪

れろ、れろ、くちゅうー……れろ、ちゅう、ちゅう、れろ、くちゅ……ちゅっ、ちゅぶっ、ちゅっ♪
ぷはっ♪ あはあー……えへえー♪

貴方の耳、私の涎でべとべとです……ふふ♪

貴方の耳も、貴方の口も……貴方のおちんちんも♪ ぜえーんぶ、私に触って、触られて……とろとろで、べと
べと、です♪んっ……ふふ♪ こんなに、とろとろになるまで我慢して下さって……私の懺悔を受けて下さって。
すごく、嬉しいですよ♪ あむっ♪ ちゅっ、ちゅっ♪」

リリウ

「ちゅっ♪ れろ、ちゅっ、ちゅっ、れろ♪

じゆる……れちゅう、ちゅう、ちゅっ♪ んっ、ぷはあ♪ あっ、はー……はー♪

どう、ですか？ 色欲、いっぱい……我慢、出来ましたか？

はあー……私、は。貴方が、吸い付いて……甘えて、頼って……懺悔して下さったから♪ 気持ちがすごく……
ふわふわでっ♪ 嬉しくっ、なっちゃって……ます♪

あむっ、ちゅう……れろ、れろ、ちゅうっ、じゅぷ、れろ、れろ、ちゅう……れろおっ♪
ぷはあっ……♪ これで懺悔、ちゃんと聞けてると思いたいんですけど、良い、です……か？」

リリウ

「……はい♪ では、これで色欲の懺悔……ちゃんと、お聞きしたという事で♪

もう、我慢は大丈夫です。いっぱい我慢して下さった分、今ここで……びゅーっ、いっぱい……出
して下さって良いすからね♪

私も、頑張って下さった分……たっぷり出せるよう最後までお手伝いしますから♪

あむっ、れろ、ちゅう、れろ、れろ、じゅぷ、れろ、ちゅう、れろれろれろ、ちゅう、じゅぷ、れろお、ちゅう
うっ、れろれろ、じゅぷ、ちゆるううっ、ちゅぷっ♪

どうふお、だひれえ……くだはいっ♪ れろ、ちゅう、れろお、ちゅっちゅっ♪
わたひのお、手れえ……受け止め、させて……頂き、まふ……かふああっ♪

んっ、れろおー……っ、ちゅぷ、じゅぷう、れろおっ！」

リリウ

「だひて、だひて、だひて……だひてえ、くだふあい♪

主（しゅ）の色欲をお……許され、てますよお♪ じゆる、れろ、じゆる、れろれろおっ♪

今、貴方は……精を吐き出してえ、良いのです♪ れろお、じゆる、じゆるうっ♪

神様に、許されながらあ♪　じゅるっ、れろっ♪　私の、手をおっ♪
れる、れろ、じゅる、ちゅうっ♪　あつあつの、どろどろの……とろとろ精液いっぱい手に、して、くだ……
ふあいつ♪

あむっ、じゅる、ちゅる、れろ、ちゅう、れろれろ、じゅる、ちゅううっっ、れろおおっっ♪♪
んっ、れろ、ちゅうううっっ♪♪」

へどくっ！　びゅっ、びゅる……びゅうううっっ！！

（射精音）

リリウ

「あっ……はあー……はあー……はあー……あ、はあ……♪

すごい、こんなにたっぷり……さっきも出して下さったのに、いっぱい出てます……あはっ♪

えへ、えへへ……手の中にローションじゃない、熱くてどろどろの、白くてくちゅくちゅいう貴方のおちんちんから出た液……子供の素、精液♪

たっぷり、いっぱい……出してもらっちゃいました♪

うふ、あは♪　こんなに出るくらい、色欲の罪を、懺悔として我慢して下さったんですね？」

リリウ

「主（しゅ）は、貴方の罪を許し……その証をここに立てた事を喜ばれておられますよ♪

私も、とても嬉しいです♪　私の懺悔でこんなになって下さって、本当にすごく……嬉しいんです♪

懺悔をするために、私の体を弄って……お願いした通りに我慢して下さって。

私を頼って、いっぱいいっぱい、おちんちん……こんなにとろとろにして下さったの見たら、とても……胸があったかくなっていました♪

ふふ、懺悔を聞く立場の私が喜んでいては、シスターとしておかしいかもしれませんが」

リリウ

「所で……いっぱい我慢して、出されて……もう、懺悔は満足されたでしょうか？

……その、えと。実は……なのですが。懺悔をいっぱい聞かせて欲しいと言ったのもありますし……。

貴方が、私の胸をいっぱい……弄られて、我慢する愛しい（あいらしい）姿も見せて下さったから。

あの、その……あの！

……私の体の奥が、火照って。女の子の場所……ちよっと、とろとろ……してきちゃって、まして……えっと」

リリウ

「……まだ、何か罪を思い出せたり、しませんか？

もし……まだ懺悔されたい事があるなら、その……貴方さえ、良ければなのですが」

リリウ

「次は、私の体の奥を使って頂いて……私の中に、乙女の……シスターである私の、女の子の場所に。

貴方の告白を……罪を償った熱い証（あかし）を、注いで頂くような。

そんな懺悔を……されたかったりは、しないでしょ……か？」

へぎし……っ

（甘えるような問い、
頷く音）